# 寺家遺跡の公開と活用

史跡の価値を多くの人に知ってもらうため、学校・地域・民間・行政の連携をもとに、さまざまな交流普及事業を行い、公開と活用をはかります。

## 歴史的資産としての活用

史跡の価値を広く情報発信するとともに調査研究の成果を公開し、価値を深めます。

■パンフレット、史跡ガイダンスムービー、WEB サイト等の制作

■歴史民俗資料館、吉崎・次場弥生公園、気多大社等との連携。

■有識者による講演会、シンポジウム。発掘現場の公開と現地説明会等の開催。

## 教育的資産としての活用

史跡の価値をより正確に知ってもらうため、学校教育・生涯学習・関連施設と連携します。

■小中学校・高校への歴史学習支援等の普及活動。教員との価値の共有。

■公民館・地区等への出前講座。学芸員やゲスト講師と歩く史跡めぐりウォーク、史跡ガイド。

■邑知地溝帯地区（宝達志水町・中能登町・七尾市）を中心とした史跡や博物館、学芸員との連携事業。

## 地域的資産としての活用

市民参加型イベントを開催するほか、観光資源としての活用にも努めます。

■寺家遺跡古代まつりの開催。土器づくり、古代ガラス、銅鏡鋳造などの古代ワークショップ、実験考古学講座。

■寺家遺跡から気多大社への周辺文化財を結ぶ周遊ルート開発と説明板設置による歴史的景観づくりと滞在性の向上。

■道の駅や民間企業との連携による情報発信。

有識者の招へいによる講演会・シンポジウム開催

文化財めぐりウォーク、学芸員の現地ガイド開催

学校教育の社会科歴史学習支援

史跡を舞台とした交流普及イベントの開催

整備イメージ（北から）

平成 30 年度　寺家遺跡整備基本計画策定事業　パンフレット「整備編」

# 史跡 寺家遺跡の整備に向けて

国史跡寺家遺跡は、羽咋の歴史のなかでも重要な部分を占める「気多大社」の古代の様子の一端を考古学的に知らせることができる重要遺跡であり、古代から続く羽咋の人々の「祈りと祭り」の歴史を伝える遺跡です。また、羽咋の自然環境の成り立ちを知るうえでも欠かせない遺跡です。

この遺跡が持つ価値を、未来の羽咋へ「守り、伝える」ためには、市民をはじめ地域の人々が遺跡のことを正確に「知り」、価値を共有することが必要です。そのためにも、史跡の整備は大切なことです。

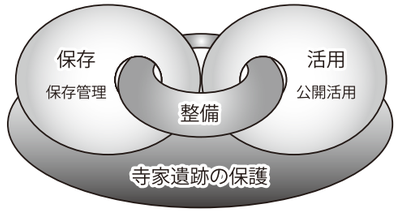
史跡を舞台に人々が集い、さまざまな活用事業を通じて遺跡の価値を知り、地域とともに生きていく遺跡を目指します。

寺家遺跡出土
神祇関連墨書
「奉・宮厨・宮・神・司・宮・司舘」

羽咋市教育委員会　〒925-0027　石川県羽咋市鶴多町鶴多田 38-1
羽咋市歴史民俗資料館内（文化財室）　☎0767-22-5998

# 整備基本計画の目的

史跡の保護は「保存」と「活用」の両面で成り立っています。史跡の保存を万全にすることで、将来にわたって活用していくことが可能となります。また、史跡を活用し、その価値を広く知ってもらうことで、保存につなげていくことができます。この両者は循環する一体であり、これを持続可能なものとするのが、史跡の「整備」です。史跡の環境整備を実施することにより、より効果的な文化財保護が達成されます。



寺家遺跡の保護の概念図

寺家遺跡は、史跡指定から７年が経過しますが、史跡の現地に立って、その価値について情報を得ることができない状態です（平成 31 年３月末現在）。史跡の価値を伝える諸環境の整備を行い、史跡を舞台とした交流普及事業を通じて、市民にその価値が広く共有されることが将来の保存につながります。この計画は、その達成に向けて、整備に向けた諸課題を整理し、必要な基礎的事項と具体的方法を定めるものです。

# 整備の基本理念

気多の神が坐（ま）す風景　砂丘に埋もれた古代羽咋の神まつり

～眉丈山系の祈りと祭りの文化財群を生かしたまちづくり～

史跡寺家遺跡は、羽咋の歴史のなかでも重要な位置を占める「能登国一宮気多大社」の古代の様子の一端を考古学的に知らせる重要遺跡であるとともに、本市の自然環境の成り立ちを知るうえでも欠かせない大切な文化財である。この遺跡に埋もれている古代神祇祭祀（神まつり）に関わる遺構と遺物を通して、それを支えた人々や神社組織の在り方と変遷を知ることは、気多大社が、どのようにこの地域に鎮座し、現在に至るのかを知ることにつながっている。これを周辺の信仰関連文化財群とともに理解することで、この地域の長い信仰文化が作り上げてきた歴史的・文化的な価値を知ることにもつながっている。

遺跡の発見から 41 年、国の史跡となり７年が経過するが、史跡指定地の多くは荒蕪地の状態で、現地に立って遺跡の価値と風景を想起することが困難な状況である。これを適切に「保存・活用」するためには、多くの人々がその価値を共有できるような「整備」が必要である。

寺家遺跡の整備は、地域の人々が史跡を知り、守り、伝えようとする諸活動を行政との協働により行うことにより、史跡の保存と活用を両立させ、持続可能性の高い文化財保護を達成しようとするものである。また、これを基盤として、眉丈山系に集中する関連文化財群も含めた広域な歴史的環境づくりを推進し、地域の歴史文化の振興、地域活性化、文化財を生かしたまちづくりによる新しい人の流れの創出に寄与することを目指すものである。

（整備基本計画書から転載）

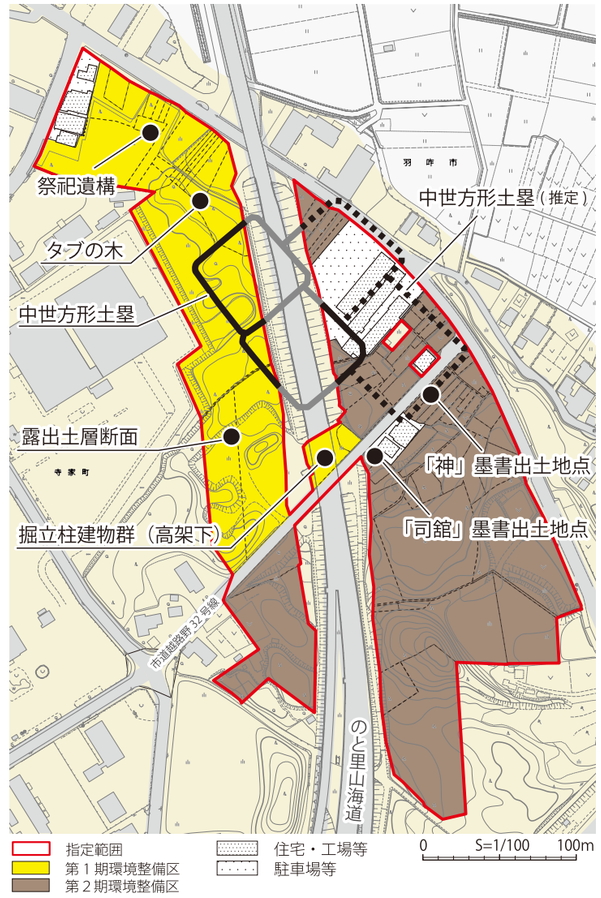
# 整備計画の対象範囲（第１期環境整備区）

平成 25 年度に策定した『寺家遺跡保存管理計画」では、史跡の現況や遺構の分布状況の検討から、史跡整備とその後の活用を効果的に進めるための地区区分を定めました。

**第１期環境整備区**は、のと里山海道と寺家工業団地の人工物に挟まれる空間ですが、遺跡を代表する重要遺構が良好に保存され、宅地・畑作地等がなく、空閑地を確保可能であることから、史跡整備の好適地として設定しました。

**第２期環境整備区**は、整備のためには追加の発掘調査が必要であり、宅地・畑作地も比較的に多いことから、現状での土地利用状況を優先して保存・管理に務め、耕作地等の利用状況を長期的に見極めながら、将来的な環境整備を検討する範囲と位置付けます。

今回、策定する整備基本計画の対象範囲は「第１期環境整備区」とします。



計画対象地の範囲（保存管理計画書に加筆）

# 整備の課題

## ー古代寺家遺跡の環境を想起することが困難ー

寺家遺跡は、厚い表土砂丘に埋もれており、古代と現代の砂丘地形が全く異なる状況です。さらに、のと里山海道の４車線化工事後の道路擁壁と寺家工業団地の工場施設の人工的な構造物に挟まれる環境にあるため、史跡の現地に立っても「この地下に古代の砂丘があり、気多神社の祭祀関連の施設群が立ち並んでいた」と想起することが困難な状況です。これらの課題を相対化し、逆に活かす方向性を考える必要があります。

## ー「古代祭祀」という抽象的な概念をどのように伝えるかー

古代神社と祭祀を支えた人々や施設の様子が考古学的にわかる遺跡と言っても、実際の人々の祭祀（祈りや祭り）自体にはカタチがないため、具体的な復元は難しく、整備でどのように伝えるべきかが課題です。これは、遺跡の大事な魅力である一方で非常に難しい課題でもあります。現地の史跡整備と並行して、「鵜祭」「平国祭（おいでまつり）」など、現在に残る特殊な古式神事・祭礼を題材に、「祈りや祭りとは何か？」をわかりやすく伝えることも必要です。

# 整備で伝えるべきテーマと対象遺構

史跡の価値および整備対象地の遺構の分布と保存状況を踏まえ、史跡整備で伝えるべき５つのテーマと整備すべき４つの遺構を設定します。

## （1）「古代気多の神まつりとそれを支えた人々の様子を知る遺跡」

古代の祭祀関連遺構、その準備・調達・生産活動に従事した「神戸（かんべ）集落」、「宮厨」「宮司舘」を備えた中枢的施設群など、古代気多神社の祭祀を支えた集団の組織的な在り方がわかることが重要です。これを伝えるため、祭祀地区の祭祀関連遺構群と柳田橋高架下に現地保存されている掘立柱建物を整備対象とします。

## （2）「古代から中世へ。神祇信仰の変遷を知る遺跡」

中世の方形土塁と内部の建物群による「郭（くるわ）」は、古代の神戸集落や宮厨などの施設群の性格を継承した中世気多神社の神官・社家組織の施設群の可能性があり、古代から中世への神社組織の変遷を知ることができます。これを伝えるため、整備対象地内に分布することが確実視される中世土塁遺構を整備対象とし、必要の範囲で性格把握のための発掘調査も実施します。

## （3）「遺跡の保護を伝え、実践する遺跡」

遺跡発見時の道路工事に伴う第１～３次調査（1978～1980）は、遺跡の価値の根幹部分であり、その重要性から、工事の内容を変更して遺構の保存の措置がとられました。寺家遺跡は、当時の文化財保護意識と「道路と遺跡」の関係を物語る記念碑的遺跡でもあります。これを伝えるため、保存措置がとられた橋脚や史跡に接する道路擁壁などを利用して、道路敷きでの調査成果と当時の文化財保護措置を解説します。

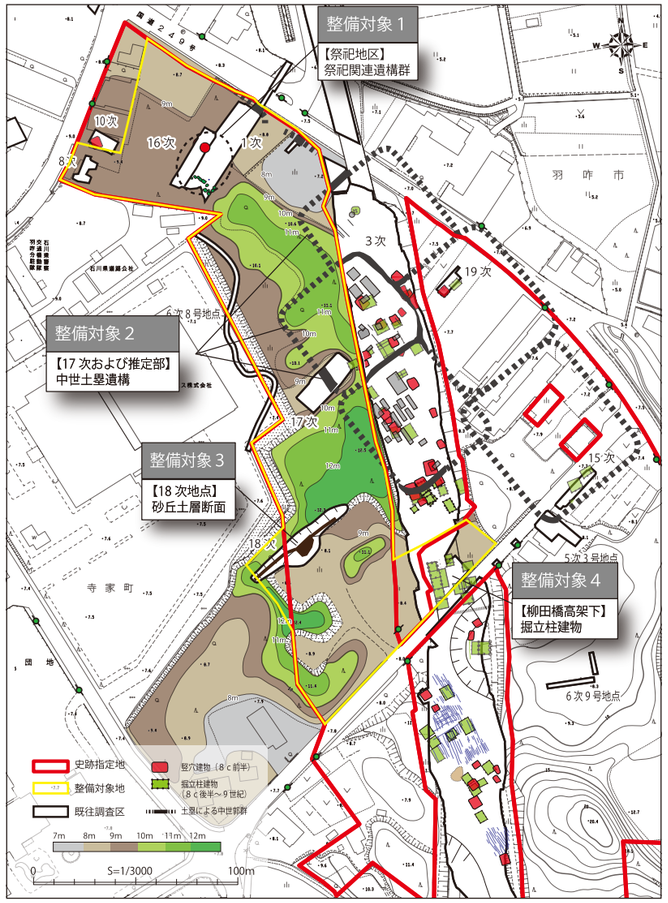
## （4）「砂丘と羽咋びとの関わりを知る遺跡」

「砂丘の遺跡」である寺家遺跡は、その成立から廃絶まで、海から吹き付ける「砂と風」の自然環境と深く関わっています。この砂丘形成のメカニズムを考えることは、白山、日本海沿岸流、邑知潟について考えることでもあり、羽咋の自然環境の成り立ちを知ることにつながっています。これを伝えるため、第 18 次調査地点に露頭している土層断面を整備対象とします。

## （5）「羽咋の祈りの歴史を知る遺跡　～なぜ、能登一宮は羽咋にあるのか～」

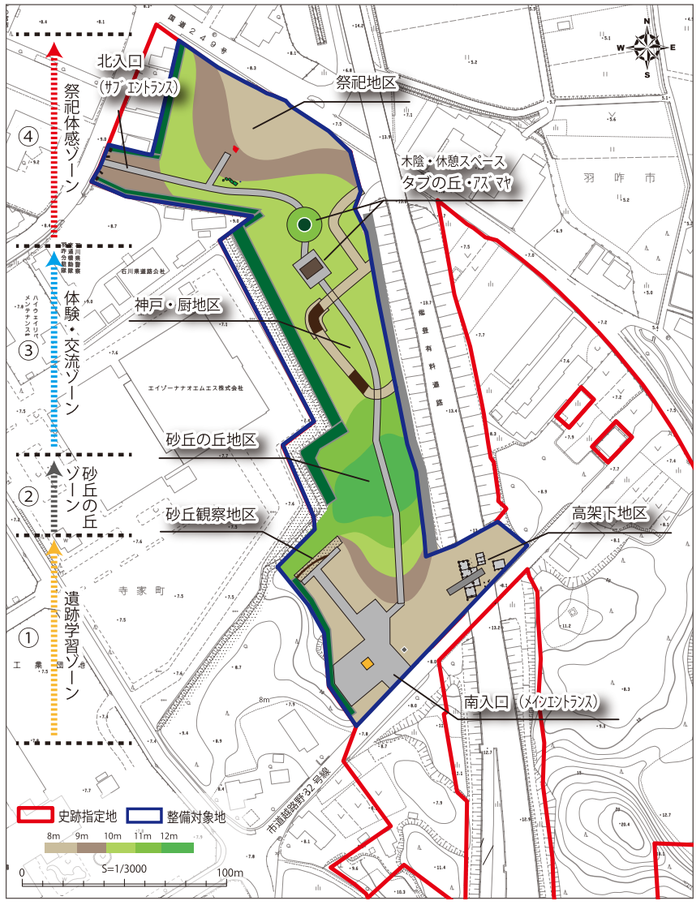
寺家遺跡と気多大社の周辺に集中する信仰関連の文化財群を一体的に捉え、羽咋の歴史の核心の一つともいえる「能登一宮」の成立を調査研究し、地域の祈り歴史の解明を通じて、広域な歴史的環境の環境整備に活かします。

【現況図】




整備対象となる遺構の位置

【計画図】




整備対象地の全体計画および地区区分（ゾーニング）

整備対象 1

祭祀地区

### 祭祀関連遺構群

大型焼土遺構 SF16、石組炉と炭・灰の廃棄土坑群（下層）、土器と祭具の集積遺構（上層）、古代砂丘の凹地地形

整備対象 2

第 17 次調査区および推定部

### 中世土塁遺構

中世の方形土塁と溝による郭（くるわ：第１郭・第５郭の一部）

整備対象 3

第 18 次調査地点

### 砂丘土層断面

削平により露頭する黒色系包含層と表土砂丘の土層断面。

整備対象 4

柳田橋高架下地点

### 掘立柱建物

第２次調査時に現地保存された掘立柱建物（SB01）および周辺の付属建物群。建物群を避けて設置された柳田橋橋脚。

# 整備のゾーンニングと基本コンセプト

南入口をメインエントランスとし、各ゾーンをつなぐ、北上する園路を基本動線とします。

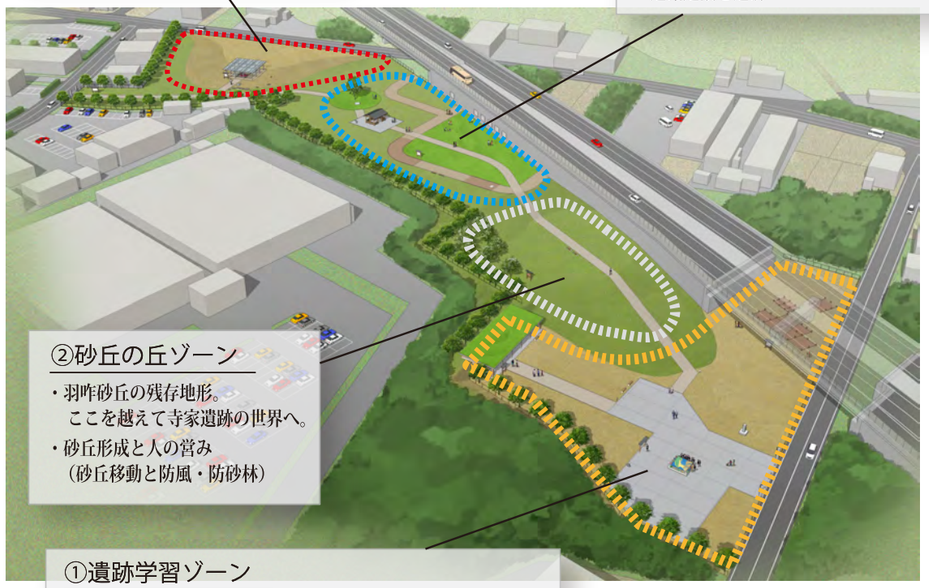
①「遺跡学習ゾーン」で史跡の概要について学習し、②「砂丘の丘ゾーン」の厚い表土砂丘を乗り越えて寺家遺跡の世界へ。③「体験・交流ゾーン」で古代から中世の遺構の特徴と変遷や人々の営みをワークショップなどを通して体験し、④「祭祀体感ゾーン」で特殊な祭祀関係の空間を感じることを基本コンセプトとします。

感じる

④祭祀体感ゾーン
- 砂丘の窪地に設けられた特殊空間
- 火を焚く神まつりのナゾ（８ｃ）
- 古代の神まつりの道具と供膳具（９ｃ）

体験する

③体験・交流ゾーン
- 古代「神戸集落」のモノづくり
- 古代「宮厨」と井戸、神饌と饗宴
- 古代まつり等のイベント広場
- 中世世界への変化（土塁に囲まれた郭群）
- 道路建設と遺跡

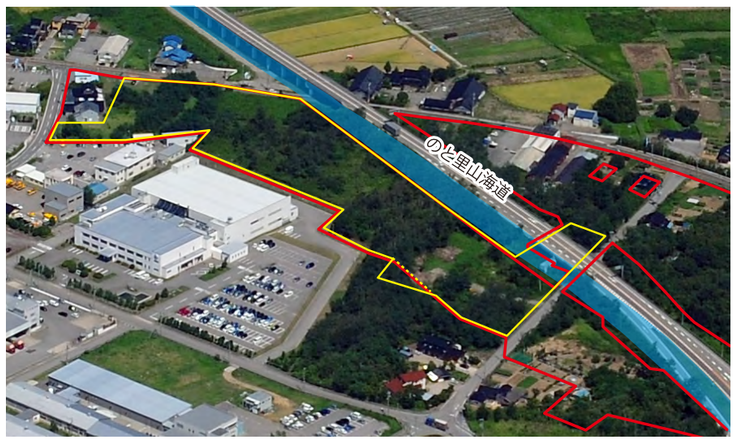


学ぶ

②砂丘の丘ゾーン
- 羽咋砂丘の残存地形。ここを越えて寺家遺跡の世界へ。
- 砂丘形成と人の営み（砂丘移動と防風・防砂林）

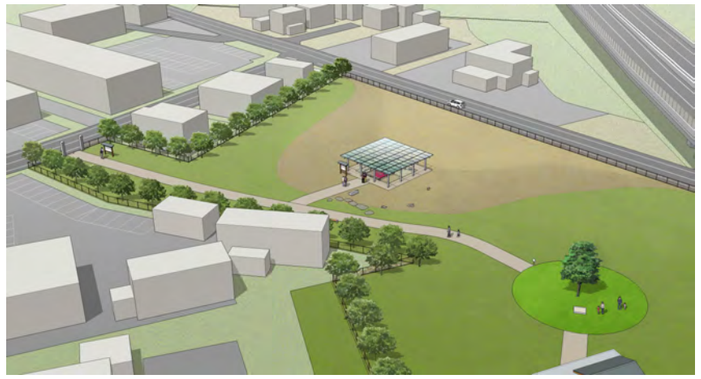
①遺跡学習ゾーン
- 遺跡全体および周辺文化財のガイダンス （エントランス周辺）
- 羽咋の砂丘地形と寺家遺跡（砂丘観察地区）

ゾーンニング鳥瞰図と基本コンセプト




整備対象地の現況
- 史跡指定範囲
- 整備対象地（第１期環境整備区）
- ４車線化工事計画範囲

## 祭祀体感ゾーン



祭祀関連遺構の復元展示と開放型覆い屋イメージ

祭祀地区の特徴である、浅い馬蹄状の窪地地形を造成し、そこで発見された寺家遺跡の象徴的遺構である祭祀関連遺構を現地で展示・解説するよう整備します。

## 体験・交流ゾーン

アズマヤと周辺での体験講座イメージ

イベントなどが開催可能な広場スペースを設置し、休憩アズマヤ施設は体験ワークショップなどの交流普及事業の場としても整備します。また、道路擁壁も活用して遺跡の価値の根幹部分を成す第１～３次調査の成果を解説します。

## 遺跡学習ゾーン

史跡のエントランス・導入部分として整備し、遺跡の概要と周辺の歴史的・自然史的環境を学習する場とします。高架下に現地保存された掘立柱建物の位置と規模の現地表示を行い、古代の「宮司舘」施設の解説を行います。土層断面の実物も露出展示し、古代砂丘と自然環境を学習する場とします。

土層断面の露出展示と覆い屋イメージ

高架下の掘立柱建物の半立体表示イメージ